

桜薬会 会報

No. **66**



April. 2017

日本大学・日本大学校友会ニュース

日本大学全国校友大会開催

母校への帰属意識の醸成をスローガンに、全国校友大会が平成 28 年 11 月 4 日（金）、東京・水道橋の東京ドームホテルで開催された。全国からに加え台湾からの出席もあり、多くの校友が参加した。開会に先立ちこの 1 年に亡くなられた方々のご冥福を祈り黙祷の後開会した。

内田俊太郎大会実行委員長の開会の辞が述べられた後、校友会会長の田中英壽理事長のご挨拶、引き続き来賓として大塚吉兵衛学長が挨拶された。来賓紹介では、大学役員、衆議院、参議院両議員の紹介に続き、ケンブリッジ飛鳥選手、原沢久喜選手、小野勇氣選手、三井梨紗子選手、木村敬一選手などリオオリンピックのメダリストも紹介、併せて報奨金と花束が贈呈された。梨子木和秀熊本県支部長による乾杯が行われ、引き続き和やかに歓談が続き大会を通じてお互いの絆を深め、盛会の中閉会した。

目次

| | |
|----------------------------|----|
| 日本大学・日本大学校友会ニュース | 2 |
| 人物往来 土屋 利寿 | 3 |
| 追悼 長谷川 稔先生を悼む | 6 |
| 特集 体内時計と病気そして薬物治療 | 7 |
| 生涯教育講座のご案内 | 12 |
| 研究室だより | 14 |
| 研究室同窓会 | 20 |
| 地区支部・職域支部だより | 22 |
| 桜の木の下で | 25 |
| 物故者名簿 | 29 |
| 薬学部ニュース | 30 |
| 平成 30 年度日本大学薬学部入学試験期日及び科目等 | 32 |
| 第 15 回日本大学医療系同窓・校友学術講演会 | 34 |
| 会務報告 | 35 |
| 会合予告 | 36 |
| 会費納入報告 | 38 |
| 平成 29 年度 通常総会・懇親会のお知らせ | 40 |

人物往来

22期（理工学部 薬学科：1977年卒）土屋 利寿



【自己紹介】

桜薬会の皆さま、はじめまして私は土屋利寿（つちやとしひさ）と申します。日本大学附属三島高等学校から薬学科に進学をして、医薬品総合商社、外資系製薬会社を経て、現在は介護業界に身をおいています。今回私がこの様な執筆依頼をいただいた事に正直驚いておりますが折角の機会ですので、近ごろ私が感じている「人と人」との繋がりについて実体験を混じえながら自分史として記させていただきます。

【学生時代】

中学校を卒業後、生まれ育った名古屋を後に単身で静岡県三島市にある日本大学附属三島高等学校に入学をし、一人生活の始まりとなりました。親元を離れての生活は、その後の私自身を変える大きな転機となりました。附属三島高校は大学教養課程の文理学部と併設の地にあり、富士山を目の前に広大な敷地に自由気ままに学生生活を満喫している大学生を羨ましくまた憧れもしました。時間が過ぎていく中、私も負けじと自由奔放な高校生活を満喫しており、その間何度も何度も曲がりかけたことは言うまでもありません。工業科の生活指導部熊澤先生のことはいまでも忘れません、本当に怖い「熊」そのものでした。幾度となく怒られながらも学校生活を続けられたのも熊澤先生のお陰です。二年生になり文科系と理科系に分かれる時、元々獣医師になりたかった私は必然的に理科系を選択しましたが、三年時の11月に行われた全国統一試験（附属高校だけの推薦試験）の結果、努力も報われず撃沈し農獣医学部の門は閉ざされ、何となく選択したのが薬学の道でした。入学式の印象はなんて女性が多い学科なんだろうと思い、楽しい大学生活が今から始まると胸を弾ませた記憶を思い出します。それにしても当時の習志野校舎の付近は何もなく学生街とは程遠く、静かな環境でした。一年が過ぎお茶の水校舎に移り、花の東京生活の始まりとなりました。HillTop ホテル近くの丘の上に建ち、付近には明治大学や中央大学、有名な駿河台予備校、専門学校の文化学院、服部学園があり日本一の学生街と言われていました。世界一の古書の街「神田神保町」もあり、また多くの学生が行き来する為に安価な食堂が建ち並び、食には恵まれた地でもありました。楽しかった大学生活も終わりに近づき、恩師の先生方や同級生のお陰で何とか国家試験を無事に合格することが出来、いよいよ社会人とし次のステージに移ることになりました。

【不思議な人との繋がり】

元々なりたかった薬剤師ではなかったので病院の調剤の仕事より、営業職に就くために地元名古屋が本社の医薬品総合商社に勤めることになりました。敢えて地元を選んだのに勤務地は埼玉県大宮支店に配属され、ここから社会人としての一步を踏み始めました。今の時代では考えられませんが社員寮があり、六畳一間に先輩との同居生活でした。それも朝夕社有車に乗り合わせ通勤する為、職場と寮を往復するだけの毎日でした。仕事内容は開業医を中心とした商品の配達と、各製薬会社の製品PR活動で一日20件～25件定期訪問をしていました。Maker 昔はプロパーと呼ばれ、今は医薬情報担当者との打ち合わせや勉強会が朝夕頻繁に行われる中、同じ医薬品を扱うなら製薬会社の方が処遇も良いし何よりも楽に見え、一年も経っていないのに上司に退職の相談をしました。直属の上司から「卸の仕事を学んでからでも遅くはないだろう、少なくとも3年は頑張ってみなさい」との言葉を頂き、尊敬していた上司でしたので素直に受け止めることにしました。

その時に親身になって色々と助言をして頂いた、係長、課長、支店長が後に Keyman となり、本当に助けて頂いた方々でした。その後も Maker に勤めたい気持ちは消えず、入社 5 年目に外資系製薬会社に転職をして、再び東京生活の始まりとなりました。せっかく東京勤務になったからと都心の真ん中、新宿区四谷三丁目のマンションに住むことにしました。今までの寮生活から 180 度環境が変化した華やかな生活のスタートでした。

その当時 Maker の仕事は卸 Sales よりも仕事量が少なく、厳しかった 4 年間の経験を活かし順調に仕事をこなしていくことが出来ました。これも仕事のいろはを教えてくれた寮同居の先輩や、その時の上司の指導のお陰であります。東京勤務も 16 年が過ぎ、運良く地元名古屋に転勤となり、それに伴い業務内容も変わり私が大変お世話になった日本一の医薬品卸会社の本社窓口担当となりました。早速、挨拶に伺った時のことです、本社専務としてみえたのが当時埼玉支店の支店長であり、その時の課長が大阪の本部長になっており、係長であった方は岐阜の本部長になっていました。あれから 16 年皆さん重い役職に就かれていたのです。その中でも大阪の本部長は後に本社の重役になられ、長きに渡り大変にお世話になりました。20 年前の埼玉支店は進出したばかりで精鋭達の集まりであったようです（私以外は）。全国担当である私の仕事が上手く遂行したことはいうまでもありません。この体験があって、私が人との出会い、関係を大切にしたいと思う気持ちに繋がっています。

【Next Stage】

年齢が 50 歳近くになると、それなりの役職を与えられ経験から仕事もそれなりに熟し特に問題なく時間が過ぎる毎日の中で、徐々に行く末が見え始めていた頃でした。院外薬局を開局した時も重なり、20 数年お世話になった製薬会社を後にしました。丁度、介護保険制度が始まり高齢化社会の問題が大きく取りあげられるとともに、福祉に興味を持ち始めた頃、縁があり現在身を置いている社会福祉法人に勤めることになりました。それと共に民生委員、保護司、人権擁護委員と携わっていくことになり、福祉を全く知らなかった私でしたが、世の中には色々な問題を抱えている困窮者の方々が本当に多くみえることが分かり、今まで多くの人に助けられここまで来られたことに感謝をし何か形でお返しすることが出来ないかと思い、一度は市議会議員に立候補して微力ながら問題解決の一員になれたらとも考えましたが、それこそ柄ではないので断念しました。

まだ若き 50 歳の頃でした。

【変わり行く人との関係】

日本の社会は世界に類がない超高齢化社会に突入しています。今から 50 年前は 65 歳以上の方 1 人を 10 人で支えていたのが現在は 2.5 人で支えているのです。10 年先には団塊の世代の方々が 75 歳を迎え、いわゆる 2025 年問題です。核家族化が進み、世帯も高齢者夫婦世帯、高齢者単身世帯が増え続け昭和のサザエさん時代はもう取り戻せなくなりました。そんな世の中に必要なものは身近な「介護サービス」であると思います。必要性が高い介護業界は残念ながら 3K の象徴であるようなイメージがあり恒久的に人手不足が続く、最近ますます拍車がかかり大きな課題となっています。近年の情報化社会により物事の移り変わりがとても早くなっています。PC からスマホに移り、人、モノの流れが大きく変わりました。世界各国で開発が進んでいる人工知能 AI、その発展が将来の仕事をも変えていきます。先日、大学病院の医師と話す機会がありその先生が「20 年先には医師が要らなくなる時代が来る」と言っていました。診断は検査機器が解析から全て行い、治療方針はマニュアル化し、外科手術はロボットが 1% のミスもなく行う。すでに現在も手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」が活躍していることを考えるとあながち先生の言葉にも真実味が帯びてきました。ネットで物を買ひ、運送はドローンが行う、スーパーでは無人レジが計算をし、支払いは電子決済をする。調剤もロボット化するかもしれません。ますます人と人のところが通う機会が少なくなり、互助の気持ち、思いやる気持ちが希薄になることが危惧

されます。そんな中、介護だけは人の手の温もりで行っていきたいものです。

【校友と親睦を深め】

現在、日本大学校友会愛知県支部の事務局として活動をしています。日頃から先輩が行き来するある日のこと、校旗が置いてないことを指摘され、早速ピンク色地の大学校旗を作り私の事務所に置くことにしました。訪ねて来られる先輩の中に大学設立時は「紅地」であったことを聞きました。仕事関係で訪れる方々がそれを見て何の旗ですかと尋ねられる度に母校の話をすると共に昔話に発展して盛り上がることも頻繁にあります。旗一つでも人との関係を深くすることが出来るのです。年一度総会を開催して校友会の会員と親睦を深めています。残念なことに参加する人の中に若者が少なく、此処でも先輩後輩で繋がる母校愛が薄れてきたように見えます。昨年、三大学生駅伝（出雲、全日本、箱根）の全日本伊勢駅伝（名古屋から伊勢）に日本大学が出場するにあたり応援ブースを用意してあると聞き、先輩たちと応援旗を持ち出かけるも、他の学校が応援団やチアリーダーで盛り上がる中、我が日本大学は誰も居らず寂しい思いをしました。多くの優秀なアスリートを生んでいる伝統ある大学です、東京オリンピックに向け精一杯の声援と応援をおくりたいものです。

最後になりますが大学時代お世話になった先生方、先輩、同期の皆さん本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

★おめでとうございます★

第9期（1964年卒・生化）杉山義夫様が多年にわたり薬事衛生業務に貢献された功績により平成28年11月3日（秋の叙勲）旭日雙光章を受賞されました。

心よりお祝い申し上げます。益々のご活躍を期待しております。

事務局からお願い

学会等で多くの会員の方々がご活躍のことと存じます。しかし、実際にはなかなか皆様のご活躍を知ることができません。今後なるべ本会誌でご紹介できるものはご紹介して行きたいと考えております。何かございましたら桜葉会までお知らせください。

追悼 長谷川 稔先生を悼む

1977年卒（22期） 高島 亨



元日本大学教授、長谷川稔先生におかれましては、平成28年12月10日にご逝去されました（享年83歳）。葬儀は故人・ご遺族のご意向で家族葬にて行われました。長谷川稔先生は日本大学工学部（現・理工学部）工業化学科をご卒業後、昭和27年に設置されたばかりの工学部薬学科（後に理工学部薬学科、薬学部）に着任されました。薬品製造学研究室で専任講師、助教授となられ、薬化学研究室の教授となられました。薬学部に分離独立後も、引き続き薬化学研究室を主宰されました。薬学部では学務担当、学生担当、薬学科主任などの要職を務められ、薬学部創成期の教育研究の基盤を作られました。

研究では、理工学部時代に東京大学薬学部薬化学教室岡本敏彦教授のもとに内地留学され、研鑽を積み、*“ニトロキノリンに対するヒドロキシルアミンの反応性に関する研究”*としてまとめられ薬学博士を授与されました。長谷川稔先生は岡本敏彦教授を大変敬愛されており、ご長男誕生の際に“敏彦”と命名されるほどでした。その後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）に日本大学短期海外派遣研究員（3ヶ月）として留学されました。薬学部では毎年海外留学は行われていますが、当時の理工学部薬学科は大学院もなく、ほとんどの若手教員は留学経験もない現状でした。しかし、先生の素晴らしい点はこの留学3カ月をどのように活かすかということを実践されたことでした。WEBや電子メールなど全くない昭和54年当時で、図書館での資料集め、UCLA J.A.Gladysz Assistant Professor（後に Distinguished Professor Texas A&M University）への手紙による研究打ち合わせ、先に留学されていた東邦大学の富樫繁夫先生への連絡及びできる限りの予備実験など精力的に準備されました。1年間留学しても論文が1報もでない人がいる中、3ヶ月の留学で J. Org. Chem. に報告されました。後年、富樫先生から、長谷川先生が研究室に着くなり、精力的に研究されたことをお伺いしました。その後、日本に戻られてからは、ベンゾフロキササン類を基質とし、抗菌性化合物の合成及び新規合成法の開発を研究されました。東京大学との共同研究では、同じ骨格のベンゾフラザン類の活性酸素増産剤としての機能を明らかにしました。これらの研究を先生と議論しながら行えたことを懐かしく思い出すと共に、今は先生と化学についての会話ができない寂しさを感じております。

また、教育に関して心に残っていることをご紹介します。先生は長く有機電子論（薬学部では初期の有機化学Ⅱ及びⅢ）の講義をしていましたが、その講義資料集はA4版462ページにもわたるもので、毎年改定されました。当時はベンゼン環を描くにも製図用ペンで描かなければならず、コンピュータや化学構造ソフトが一般流通していない時代の資料集作りのご努力・化学への情熱は今も忘れられません。

一方、先生は多趣味でもおられました。若い時には、スキー、ボーリングをされていたようです。卒研究生が企画したボーリング大会で、基本に忠実な投げ方されておられるのを初めて見たときには学生共々びっくりさせられました。その後、ゴルフを趣味にされ、教職員有志の大会には良く参加されておられました。卒研究生や卒業生とグリーンを歩くこともあり、その際には本当に楽しそうでした。しかし、退職前に腰を悪くされ、趣味をカメラ撮影にシフトされ、花、樹木、景色を中心に作品を創作されておられました。先生の作品は桜薬会報の表紙を何度か飾りました。先生は日本大学を退職後、趣味のカメラ撮影に精進され、地域サークルを中心に活動され、作品を発表されておられました。

長谷川稔先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



健康衛生学研究室 教授 榎葉繁紀

はじめに

マウスでの実験レベルの話ではあるが、興味深い結果が報告されている¹⁾。高脂肪食を決まったある時間にのみ与えた場合（制限給餌）、高カロリー摂取をしたにも関わらず体重増加がほとんど見られず、通常食で飼育した場合とかわらない体重を示した。ところが自由にエサを食べられる状態におかれたマウスは、1日を通じて継続的に摂食して、摂取カロリー量は制限給餌の場合と同じにもかかわらず体重増加（肥満）を示した。この結果は、規則正しい食生活により肥満症が予防できることを意味している。言い換えれば、体の中では、食事の栄養素そして薬物も体内に吸収されやすい時間、分解されやすい時間、排泄されやすい時間、そして貯蔵されやすい時間が決まっており、そのルールに従わなければ、それなりの代償を払わなければならない。図1に朝食>夕食にしたことによる糖尿病の改善効果を示す²⁾。体重1kgあたり朝食を2キロカロリー増やし、夕食を4～5キロカロリー減らした結果、ヘモグロビンA1c（糖尿病の指標）の値が著しく減少した。この結果からも、「何をどれだけ食べるか」に加えて「いつ食べるか？」が健康を考える上で大変重要であることがわかりいただけると思う。

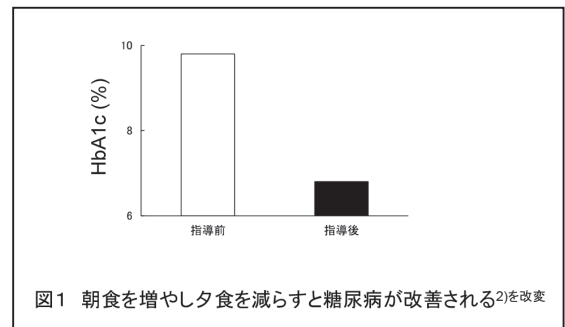


図1 朝食を増やし夕食を減らすと糖尿病が改善される²⁾を改善

1. 体内時計

体の中で「決まった時間に決まった生理反応が行われていく」のは、体内時計の働きによるものである。体内時計というと、何かぼんやりとしたイメージしか湧かない方が多いと思うが、これは遺伝子の中に刻み込まれた誰もが持っている体の仕組みのひとつである。私たちはこの体内時計の働きにより、朝になれば目が覚めるし、夜になれば眠くなる。以下に体内時計による生理反応のコントロールを「病気が起こりやすい時間帯」を例に見てみたいと思う。

1) 午前8時～正午

この時間帯は「血管病が発生しやすい魔の時間」

起床と共に心臓が一気に全身へと血液を送ろうとするため血圧が急激に上昇する時間帯である。さらに血液の粘性が1日の中で最も高く、血栓ができやすい時間帯でもある。そのためこの時間は、心筋梗塞や狭心症などの心臓病、そして脳梗塞やくも膜下出血などを引き起こしやすく、突然死が多い時間帯である。

2) 正午から午後5時

この時間帯は、気力もみなぎり、仕事や家事がはかどる時間。

実は、この時間帯が病気の発症が1日のうちで最も少ない時間帯である。しかし、夕方に近づくにつれて緊張性頭痛の発症頻度が増加する。

3) 午後5時から午後9時

脈拍が増え、体温が最も高い時間。

もともと動脈硬化がある方は、脳卒中や心筋梗塞が朝に次いで多い時間帯でもある。また、歯が痛くなったり、腰痛がひどくなったり、痛みを最も敏感に感じる時間帯。

4) 午後9時から深夜0時

かゆみが増す時間。これはこの時間帯になるとヒスタミンが過剰に分泌され防御反応が働いて皮膚が過敏になるためである。

5) 深夜0時から午前4時

消化器系を患う時間である。

この時間帯は、リラックスモードになる副交感神経が高まる時間帯で、主にエネルギーの貯蔵や体の修復が促進する。しかし、この副交感神経が高まると胃が活発に動きだし、胃酸が多く分泌され、胸焼けや胃潰瘍・十二指腸の痛みなどが起こりやすい時間帯でもある。またこの時間帯は、喘息が起こりやすく、さらにはがん細胞の分裂や増殖が最も盛んな時間帯とも言われており、体が一番変化しやすい時間帯である。

6) 午前4時から8時

リラックスモードの副交感神経から活動的な交感神経へ移行し自律神経が最も乱れる時間帯。

体の働きをコントロールする自律神経が乱れることで体内の異物に免疫反応を起こしやすく、気管支喘息やアレルギー性鼻炎などの症状が悪化しやすくなる。また、風邪やインフルエンザの症状が、最も悪化する時間帯でもある。

2. 薬やサプリメントの効果から見た体内時計

このようにそれぞれの病気はある特定の時間に比較的多く発症することから、その時間に合わせて薬を与えると、効果が増大し、副作用が軽減される場合がある。一般家庭において良く知られている例としては、小児の喘息治療に用いられるパッチがあげられる。これは喘息が夜中に頻発することに対する対応であるが、寝る前に薬物が入ったパッチを貼ることにより、夜中に血中の薬物濃度が最大になり、効果を発揮する。また脂質異常症（高脂血症）の治療薬も夜間に服用する場合がある。これは夜間に脂質合成が活発になるからである。さらに最近では、一部のがんに対して制がん剤の夜間投与が行われ、顕著な効果が現れている。制がん剤の時間薬物治療は副作用を軽減する意味でも効果が大きく、今後の発展が期待されている。

次に薬ではないが、サプリメントのひとつとしてカルシウムの例をあげたいと思う³⁾。骨は一日を通じて常に作る／壊すのサイクルがまわっている。例えば、骨から血液中へのカルシウムの流出は昼間に多く起こる。それに対して、血液からカルシウムへの流れは夜間に優位なる。したがって、昼間のカルシウム摂取は骨が痩せていくのを補い、夜間の摂取は、骨を太くするために効果的であると言える。

以上に述べてきたように体の機能は、時間によってコントロールされており、これの利用は健康増進および薬物治療に効果的である。

3. 夜食は太る（エネルギー代謝の時間生物学）

このタイトル「夜食は太る」というのは、ある一晩の食事の影響を指すのではなく、夜食が習慣となった場合の影響を指すことをあらかじめご理解いただきたい。

グローバル化や効率を重視した24時間サービス等、時間の概念が薄れつつある現代社会では、いわゆる夜食をとることも珍しくはない。その一方で夜遅い時間帯での食事の習慣が体重増加につながるこ

とは、多くの方が経験済みのことだと思う。それでは、昼の食事と夜の食事では、そこから得られる栄養素の利用において何が違うのであろうか。タイトルにある“太る”という現象は、一般的には脂肪組織における脂肪細胞の数の増加ならびに肥大化を指す。食事由来の栄養素が脂肪細胞に到達し、その後、中性脂肪として脂肪細胞の肥大化に用いられるまでの過程には、言うまでもなく消化、吸収、輸送ならびに代謝の過程が存在し、さらにそれらは自律神経ならびにホルモンにより密接に制御されている。休息期（主に夜）においては交感神経の活性は低下しており、その結果、消化管の蠕動運動ならびに腺分泌が活性化される。さらには消化酵素である膵リパーゼやアミラーゼの活性が上昇し、栄養素の吸収が進む。したがってより多くの栄養素が体内に輸送されることになる。体内に運び込まれた栄養素は全身の臓器、すなわち細胞に取込まれていく。そこで細胞内の様子を観てみると、基礎代謝量は活動期（昼間）に高く、休息期（夜間）に低い値を示す。これは各細胞内におけるミトコンドリア機能が夜間には低下していることを示している。つまり夜間は炭素源を燃焼する機能が低下しており、炭素は脂肪酸合成へと利用されるわけである。

炭水化物の利用効率をグルコース負荷試験（グルコースを飲んだ後の血糖値の変化）の結果から考えてみると、グルコース負荷試験のスコアは午前中の方が良好（血糖値がすぐ下がる）であり、遅い時間になるほどそのスコアは悪い値を示す。すなわち夜間になるほど炭水化物の燃焼効率は低下している。このグルコース負荷試験のスコアにおける日内変動は、血中インスリン量とその効き方から一部説明される。すなわちインスリン量は1日の間で16時前後をピークとし、夜間にかけて減少する。またイン

スリンの効き方にも日内変動があり、例えば、午後8時以降はインスリンの効きが弱まってきて、血糖値が下がり難くなる。特に24時以降になるとインスリンの効きは、極端に弱まり、血糖値の上昇が起こり、これは明け方まで続く⁴⁾。またこのインスリン量や効果の日内変動は、血中脂質量とは逆の関係を示し、血液中の中性脂肪量ならびに遊離脂肪酸量は23時過ぎから上昇し、その高レベルは明け方まで続く。身体、すなわち各臓器は昼間に消費したエネルギーを夜の間にチャージする必要がある。そこで夜間、インスリンの作用を弱めることにより脂肪組織に貯めておいたエネルギーを各組織に向かって分配する。一方、夜間における食事は、血中インスリン量の増加を招き、その結果として、脂肪組織はエネルギーを分配する必要がなくなったと感じるようになる。そのため脂肪組織での中性脂肪の分解が抑制され、また同時に脂肪酸や中性脂肪の合成に関わる酵素の遺伝子発現量は、夜間に増加していることから脂肪組織内において中性脂肪量が増加する、すなわち脂肪細胞は肥大化する⁵⁾。

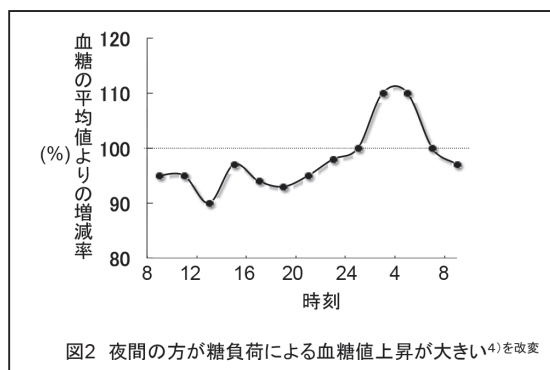


図2 夜間の方が糖負荷による血糖値上昇が大きい⁴⁾を改変

スリンの効き方にも日内変動があり、例えば、午後8時以降はインスリンの効きが弱まってきて、血糖値が下がり難くなる。特に24時以降になるとインスリンの効きは、極端に弱まり、血糖値の上昇が起こり、これは明け方まで続く⁴⁾。またこのインスリン量や効果の日内変動は、血中脂質量とは逆の関係を示し、血液中の中性脂肪量ならびに遊離脂肪酸量は23時過ぎから上昇し、その高レベルは明け方まで続く。身体、すなわち各臓器は昼間に消費したエネルギーを夜の間にチャージする必要がある。そこで夜間、インスリンの作用を弱めることにより脂肪組織に貯めておいたエネルギーを各組織に向かって分配する。一方、夜間における食事は、血中インスリン量の増加を招き、その結果として、脂肪組織はエネルギーを分配する必要がなくなったと感じるようになる。そのため脂肪組織での中性脂肪の分解が抑制され、また同時に脂肪酸や中性脂肪の合成に関わる酵素の遺伝子発現量は、夜間に増加していることから脂肪組織内において中性脂肪量が増加する、すなわち脂肪細胞は肥大化する⁵⁾。

食欲のコントロールに関しても夜中は大切な時間帯である。食欲を調節する生理活性物質としてレプチンがあるが、これは脂肪組織で産生・分泌され、脳の摂食中枢に働きかけて食欲を抑制する。レプチン量は23時頃から増え始め、夜中の3～4時頃にそのピークになる⁶⁾。つまり夜中は、栄養素の摂取は完了し、それをエネルギーに変換して貯蔵する時間である。こう見るとレプチンは夜中に食欲を抑えてくれる大切な生理活性を持っていることがお解りかと思うが、ひとつだけ落とし穴がある。それはレプチンが、甘みに対する感受性を低下させるということである⁷⁾。言い換えれば、夜中は甘みを感じ難くなっており、そのため甘いもの食べた際になかなか満足せず、ついつい過剰量を摂ってしまう可能性がある。

4. 夜食を摂るような生活と病気

夜食を摂る生活の例としてシフトワークを考えてみたいと思う。我が国におけるシフトワークとメタ

ボリックシンドロームに関する大規模疫学調査が2006年にまとめられ、その結果においてもシフトワークによる肥満者数の増加ならびに虚血性心疾患による死亡のリスク増大が示されている。シフトワークによるメタボリックシンドローム発症リスクの増加のメカニズムは明らかではないが、体内時計のかく乱に伴うホルモン分泌の異常、あるいは夜間のエネルギー摂取の増加のためではないかと考えられている。また血中中性脂肪値、HDL値そして肥満を指標にしたシフトワークに関する大規模な疫学調査が行われている。これらいずれの指標もシフトワーカーにおいて悪化しており、さらにはこれら3つの指標のうち2つ以上において悪化を示す患者数は男女ともにシフトワーカーにおいて有意に多い。このことはシフトワーカーではこれらの疾患が互いにリンクしやすい、すなわちメタボリックシンドロームをおこし易いことを示している。例えば、シフトワーカーにおけるメタボリックシンドローム発症のオッズ比は1.5を超え、さらにはメタボリックシンドローム発症時に見られるような炎症マーカーの増加が認められる。またシフトワークは勤務年数が長い女性看護師に乳がんが多いこと、また男性のシフトワーカーに前立腺がんが多いことなどからシフトワークと発がんとの関連も疑われている。

5. 朝食の効果

脳の体内時計は光で、内臓の体内時計は長い空腹（＝飢餓）時の後の食事によりリセットされる。もし朝食を摂らずに飢餓時間が一定時間以上長くなってしまうと内臓はいつまでも夜型の仕組みを動かすことになり。したがって先に述べたように栄養素が入ってきた際に、それを貯め込む方向（＝太る）に動く。

それでは朝食はたくさん食べてもOK?

統計的にみても、朝食を摂らない人ほど遅い時間に食事を摂ること、そして太りやすい傾向にある。それとは反対に朝食を摂る人には肥満者は少ない傾向にあり、また同時に夜の食事時間が早いことが示されている⁸⁾。つまり朝食を摂る習慣をつければ、自然と夜食が少なくなり太り難くなる。

朝食は、1日のエネルギー産生量を上げ仕事の効率を高めるだけでなく、健康維持の観点からも大切なイベントだと言える。

6. スタチン系薬剤による脂質異常症の時間薬物治療

HMG-CoA レダクターゼ量が夜間に増加することから、この酵素をターゲットとしたスタチン系薬物の夜間の投与が多く行われている。しかしながらその効果には、論議が多い。シンバスタチン2.5mgならびに5mg投与は、朝夜いずれの投与においてもLDLコレステロール（LDL-C）や中性脂肪を効果的に減少したが、その程度は夜間の方がより高い（表1）⁹⁾。またロバスタチン、ロスバスタチン、プラバスタチンに関しても同様の傾向は認められる¹⁰⁻¹²⁾。一方で、アトルバスタチンに関してはそのような投与時刻による効果の違いは認められない（表1）^{13,14)}。スタチンによる治療で効果不十分な高コレステロール血症患者において、スタチンの増量、あるいは他のスタチンへの切り替えよりも、エゼチミブを併用する方がLDL-C低下効果に優れているが、この併用効果（エゼチミブ/シンバスタチン10mg/20mg）に関して、朝あるいは夜間投与の効果を検討した¹⁵⁾。その結果、脂質代謝改善作用はいずれの時間の投与においても認められたが、投与時刻による効果の強さに違いは認められなかった¹⁵⁾。これらの検討は、被験者の属性、統計方法など多くの点

表1 スタチン系薬剤による脂質異常症の時間薬物治療

| | | LDL-C低下作用 (%) | 総コレステロール低下率 (%) | 中性脂肪低下率 (%) | HDL-C増加率 (%) |
|-----------------|---------|---------------|-----------------|-------------|--------------|
| シンバスタチン (2.5mg) | Morning | 15.2 | 11.0 | 1.2 | 4.6 |
| シンバスタチン (2.5mg) | Evening | 22.2 | 15.0 | 7.5 | 10.6 |
| シンバスタチン (5mg) | Morning | 19.3 | 14.0 | 1.7 | 2.8 |
| シンバスタチン (5mg) | Evening | 28.5 | 21.0 | 4.9 | 5.4 |
| プラバスタチン (40mg) | Morning | 29.5 | 22.9 | 10.6 | 4.1 |
| プラバスタチン (40mg) | Evening | 32.5 | 25.6 | 24.1 | 8.2 |
| アトルバスタチン (40mg) | Morning | 47.4 | 34.6 | 29.5 | 7.3 |
| アトルバスタチン (40mg) | Evening | 46.6 | 34.7 | 28.1 | 7.6 |

で不統一なものであり、単純に比較することは難しいため、薬剤による時間薬物治療の効果の違いのメカニズムは不明である。

7. まとめ

以上に「体内時計」にしたがって生活していくことの重要性を、「肥満は夜つくられる」を例にして述べてきた。体内時計の存在は、古くから知られた事実であるが、最近になりそのメカニズムについて分子レベルで明らかにされてきました。すなわち生理機能の日内変動は、体内時計を構築する因子である「時計遺伝子」により制御を受けること、そしてその制御に異常が生じた時（シフトワーク、夜更かし、朝食抜き、夜食など）に肥満、糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、がん等が発症することが報告されている。したがって健康維持には、体内時計により制御された身体内の時間と周囲の影響を受ける生活時間とを上手くシンクロナイズさせることが重要である。それではそのために必要なことは？簡単に言えば規則正しい生活を過ごすことである。「早寝、早起き、朝ご飯」は、躰のためのフレーズだが、これは子供に対してだけではなく、大人にとっても大切なことである。「なんだ、そんなこと？あたり前だよ。もっと特別なこと無いの？」という声が聞こえてきそうだが、現代社会では、そのあたり前のことを続けるのが難しい。自分の生活習慣を変えることは簡単ではないが、体内時計を念頭にどこかで振り返ることも必要ではないだろうか。

参考文献

- 1) Hatori M et al Cell Metab 15:848-860 (2012).
- 2) 足立香代子 栄養学雑誌 56:159-170 (1998).
- 3) Joseph F et al. J Clin Endocrinol Metab 92: 3230-3238 (2007).
- 4) 加藤秀夫 他 時間栄養学 香川靖男 (編) p75-108 (2009).
- 5) 榛葉繁紀 日本医事新報 4756:44-45 (2011).
- 6) Sinha et al. J Clin Invest 97:1344-1347 (1996).
- 7) Kawai et al. Proc Natl Acad Sci USA 97:11044-11049 (2000).
- 8) Ma Y et al. Am J Epidemiol 158:85-92 (2003).
- 9) Saito Y et al. Arterioscler Thromb Vasc Biol 11:816-826 (1991).
- 10) Hunninghake DB et al. Atherosclerosis 85:219-227 (1990).
- 11) Martin PD et al. Br J Clin Pharmacol 54:472-477 (2002).
- 12) Insull W et al. Arch Internal Med. 154:2449-2455 (1994).
- 13) Cilla DD et al. J Clin Pharmacol 36:604-609 (1996).
- 14) Plakogiannis R et al. Am J Health Syst Pharm 62:2491- 2494 (2005).
- 15) Yoon HS et al. Ann Pharmacother. 45:841-849 (2011).

略歴

1991年 静岡県立大学大学院薬学研究科修了（薬学博士）
1991年4月 - 1995年11月 ベイラー医科大学（米国）リサーチアソシエート
1995年12月 日本大学薬学部勤務
2012年4月 日本大学薬学部 健康衛生学研究室教授
2015年4月 - 現在 研究担当

受賞歴

2005年 JHS Best Paper Award (日本薬学会)
2014年 日本学術振興会科研費審査員表彰
2015年 日本薬学会環境・衛生部会 学術賞

学会活動

日本薬学会代議員、日本肥満学会評議員、日本時間生物学会評議員

生涯教育講座のご案内 (平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月)

平成 29 年度も充実した企画を予定しています (下記以外の講座も例年通り開催します)。お早めの受講申込みをお待ちしています。開催場所等変更になる場合がございますので、ホームページにて必ず御確認ください。 <http://www.pha.nihon-u.ac.jp/longlife-learning.html/>

平成 29 年 4 月

臨床研究の倫理指針や研究デザインについての理解を深めます。初学者でも気軽に参加できます。

【ブラッシュアップセミナー】

テーマ：「臨床研究の ABC – クリニカル・クエスチョンを解決しませんか？」

日 時：4 月 15 日 (土) 16:00～19:30 および 4 月 16 日 (日) 9:20～16:30

場 所：日本大学 桜門会館

市ヶ谷駅下車 徒歩 1 分

認 定：研修認定薬剤師制度の受講シール (2 日間で 6 単位) を交付、もしくは、日本臨床薬理学会認定 CRC 制度による研修会・講習会認定証 (5 点)

講 師：内田 直樹先生 (昭和大学医学部) 今井 浩光先生 (大分大学医学部)
氏原 淳先生 (北里大学 北里研究所病院) 松岡 悦子先生 (関西医科大学附属枚方病院)
水井 貴詞先生 (岐阜市民病院) 荒川 基記先生 (日本大学 薬学部)

平成 29 年 5 月

COMPASS プロジェクト、3 ☆ファーマシストでお馴染みの岡田浩先生による研修です。

第 169 回【最近のトピック】

テーマ：「薬局薬剤師による慢性疾患患者支援～国際比較研究結果から」

講 師：岡田 浩先生 (アルバータ大学 EPICORE センター リサーチフェロー)

日 時：5 月 12 日 (木) 19:30～21:00 (1 単位)

場 所：船橋市民文化創造館 (きららホール) 船橋駅南口下車 徒歩 2 分

【ファーマシューティカルケアの最前線】

テーマ：「行動科学の基づく糖尿病患者支援～患者のやる気を高めるアプローチ」

講 師：岡田 浩先生 (アルバータ大学 EPICORE センター リサーチフェロー)

野村 洋介先生 (株式会社阪神調剤薬局) (予定)、神林 弾先生 (薬樹薬局いずみ中央) (予定)

日 時：5 月 14 日 (日) 13:00～14:30、14:40～16:10、16:20～17:50 (3 単位)

場 所：日本大学 通信教育部 (http://www.dld.nihon-u.ac.jp/access_map/)

市ヶ谷駅下車 徒歩 3 分

平成 29 年 6 月

第 170 回 [最近のトピック]

薬剤師資格の電子認証（HPKI）、電子処方箋など、薬剤師に関わる医療 ICT について解説いただきます。

テーマ：「医療 ICT と薬局薬剤師業務との関わり（仮題）」

講師：渡邊 大記 先生（日本薬剤師会 常務理事）（予定）

日時：6月8日（木）19：30～21：00（1単位）

場所：船橋市民文化創造館（きららホール） 船橋駅南口下車 徒歩2分

[薬剤師実践セミナー]

テーマ1：フィジカルアセスメントモデルを活用したバイタルサインの確認

—実践に際して医師の立場から薬剤師へのメッセージ—

講師：鈴木 孝先生（日本大学薬学部）

テーマ2：患者の心に寄り添う薬剤師になろう！

—認知行動療法的アプローチによる服薬支援（導入編）—

講師：前田 初代先生（CBTA 服薬支援研究会）

田沼 和紀先生（株式会社カメガヤ（フィットケアデポ））

渡邊 文之先生（日本大学薬学部）

日時：6月24日（土）14：00～18：00 および6月25日（日）10：00～17：00

場所：日本大学薬学部校舎 東葉高速鉄道 船橋日大前駅下車 徒歩7分

認定：2日間で5単位

問い合わせ先：日本大学薬学部薬剤師教育センター
TEL：047-465-3895 FAX：047-465-2384

日本大学校友会正会員募集中

皆様は日本大学薬学部校友会が、日本大学校友会の下部組織として活動していることはすでにご存じのことと思います。薬学部校友会は卒業生を正会員に、在校生を学生会員として構成しております。日本大学校友会では卒業生全員に、毎年2月頃、校友会誌「KIZUNA（絆）」を送付し、別途登録して頂いた校友を正会員（会費10,000円）として正会員会誌「桜縁」（年2回発行）をお届けしております。正会員会費の一部は薬学部校友会へ納入した翌年に還付されます。還付金は還付当年度の薬学部校友会年会費としております。ぜひ正会員登録をして頂きたくお願い致します。希望者は事務局までお知らせ下さい。

工学部薬学科・理工学部薬学科卒業生にお願い：

登録・会費納入に際して郵便振替用紙記入の時、「所属する支部・部会」欄に必ず「薬学部校友会」と記入して下さい。無記入ですと本会に還付されませんので、薬学部校友会会費に振り替えることが出来ません。ご注意下さい。

研究室だより

薬物治療学研究室（1号館3階132）

桜薬会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。薬物治療学研究室の近況をご報告致します。当研究室開設から6年目となり、林教授、小瀬の2名の教員と大学院生1名、5～6年生が各8の構成となっております。研究内容は、医療機関の先生方と協同で、リハビリを行っている患者や高齢者の適切な薬物治療についての研究のほか、ポリファーマシー、心房細動や腎疾患患者にとってより良い薬物治療の検討などに取り組んでおり、幅広く臨床業務に対応できる薬剤師の育成を目指しております。

平成29年度は、6年生8名は5年次の実務実習終了直後から卒業研究に励み、卒論作成後、後期からは国家試験対策に取り組む予定です。5年生は、OSCE、CBTを無事に終了し、その後、病院・薬局実務実習に行く予定です。実務実習前より卒業研究に取り組んでおりますが、臨床現場の知識が乏しい中、研究の難しさを感じながら、しっかりと研究に力を注いで欲しいと願っております。

さて昨春には5・6年生とともに千葉県茂原に研究室旅行に行って参りました。研究や勉強で忙しいはずの6年生が企画から運営まで全てを仕切ってくれました。茂原でのアスレチック体験やバーベキューなど、日々の忙しさを忘れ、かけがえの無い時間を過ごすことができたのではないかと思います。

この会報が届けられる頃には国家試験の合否が判明している事と思います。全員に桜の花が咲いていることを祈念しております。末筆ながら、本年も変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、会員の皆様方の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。（小瀬 記）



健康衛生学研究室（3号館2階324）

この度の「平成28年熊本地震」により被災されました熊本県・大分県はじめ九州地方の皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。桜葉会会員の方の中にも被災された方がいらっしゃるという話を伺っております。私どもにできることがあれば微力ながらお手伝いさせていただきますので、お声かけいただきますようお願いいたします。

健康衛生学研究室の近況についてご報告させていただく前に、少し時計の針を巻き戻させていただきます。平成25年7月に本研究室の5周年記念同窓会を行いました。卒業後5年以内のメンバーとあって「それほど変わっていないだろう」と予想していましたが、皆さんからご活躍の様子を聞くにつれ大変頼もしくまた嬉しく思いました。次回は2020年の10周年記念同窓会になります。「君子の交わりは水の如し」の言葉を胸に再開の時をお待ちしております。

同窓会の話を書きながら思うのですが、年々歳々人変わるといっても、本研究室に配属される学生には何時も感心させられます。特に平成28年度の6年生の研究室活動における姿勢やエネルギーは素晴らしく、非常に充実した時間を過ごし、多くの成果を残すことができました。また8月には大阪での日本肥満学会関連シンポジウムでも3件の発表を行い、高い評価をいただきました。現在、彼らは国家試験に向け猛勉強中です。拙文が皆様方のお目に触れる頃には、この子達に春が訪れているものと期待しています。

次の代の学生たちは、この伝統を受け継がなければならないのですが、その一環として8月中旬には6、5年生とともに群馬県水上へ1泊2日の研究室研修旅行に行きまして。天気にも恵まれ、ラフティング、バーベキューを楽しみ、夜には水上温泉で日頃の疲れを癒した。さらに翌日にはそば打ちの体験と充実した内容の旅行で、研究室メンバー内の親睦がより一層深められ、伝統の継承がなされたことと思います。

新たに本研究室に配属された現4年生7人は、昨年12月と今年の1月に行われた薬学共用試験OSCEとCBTを無事に合格し、新年度から実務実習と卒業研究に取り組めます。今後この学生達が成長して行く中で校友会の皆様方にはご迷惑をおかけいたしますが、変わらぬご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

（榛葉、和田 記）



環境衛生学研究室（3号館2階325）

桜葉会会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。当研究室の近況をご報告させていただきます。

平成28年度を迎えるにあたりまして、研究室の体制に大きな変化がございました。平成28年3月をもちまして、本学にて長きに渡り教鞭を執られました立川真里子先生が定年でご退職され、翌4月に加藤孝一准教授が教授に昇進されるとともに、下田が助教として新たに着任致しました。これに伴い、現在、研究室は山中教授、加藤教授、下田、テクニカルスタッフの松島さん、客員研究員3名、さらに配属の卒業研究生32名（6年：7名、5年：12名、4年：13名）の体制で動いております。

研究は、2014-2016年度科研費基盤研究課題である「食品中ヒ素化合物の代謝と生体影響に関するメタロミクス解析」、ならびに酸化ストレスに起因する炎症性疾患の発症機構の解明についての研究を中心として、食品加工中に生成する発癌物質の曝露低減方法、職業病の発症機構およびその予防法、気象条件と大気中PM2.5濃度の関係についてなど、分野ならではの多彩なテーマに取り組んでおります。スタッフの人数に比して学生の人数が多く、議論を深めるにもなかなか行き届かないもどかしさもございましたが、学生とともに鋭意研究を進めております。

末筆ではございますが、会員の皆様のご健康、ならびに益々のご活躍を祈り申し上げます。

（下田 記）

薬品分子化学研究室（3号館3階334）

桜花の候、校友会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この校友会会報に研究室だよりを寄稿するのは2014年の春号以来となります。その為か様々なことがこの3年間でありました。まず皆様もすでにご存じでしょうが当研究室の本橋 重康教授が2015年4月から学部長として就任なされ、本年で3年目を迎えようとしております。また鳥山 正晴准教授は2016年4月から薬品分子化学研究室内の教授として昇進され、本橋先生とツートップで研究室を運営されております。私事ではありますが2015年に助教から准教授に昇進させていただき、初めて職位の上がる辛さを実感しながら日々の仕事を何とかこなしております。3年前に研究室だよりを書いていたころとはだいぶ研究室の様相も異なっていることを考えると、時の経つ早さにある種の不思議さを覚えます。

現在、研究室には大学院1年生が1名、6年生が14名、5年生が9名、4年生が8名在籍しております。6年生は総合講義試験も終わり、執筆段階では国家試験に向けて進取果敢に勉学に取り組んでおります。国家試験に全員が合格することを研究室員一同、願うばかりです。5年生は大半の学生が実務実習を終了し、卒業研究に日々追われております。しかし当研究室特有の団結力で皆で互いを励ましあい、支えあって研究をしている姿を見ますと、学生たちの成長を実感でき、このまま最後まで欠けることなく卒業、そして国家試験を無事突破してくれるのではないかと今から期待しております。4年生は全員が共用試験をストレートで合格し、卒業研究を行っております。5年生とペアを組み、必死になって実験のノウハウを教えてもらっております。个性的であり、いわゆる日本大学薬学部らしい学生が集まった当研究室で仕事ができることは、私にとって大きな喜びでもあります。

昨年夏には研究室研修旅行と銘を打ち、6年生と5年生を中心として草津に日々の疲れを癒しに行っ

てまいりました。写真はその時の様子です。この学生たちがこれから大学を巣立ち、社会に羽ばたこうとしております。お手数をおかけすることになるとは思いますが、どうぞ後輩たちを叱咤激励し、後進の育成と日本大学薬学部の発展にお力添え願えないでしょうか。

最後になりますが校友会の皆様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(三浦 記)



生体機能化学研究室（3号館3階335）

桜薬会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本研究室は発足して10年が経ちました。皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。現在、飯島教授、私高宮で教育・研究に取り組んでおります。

昨年4月から北中進先生が上席研究員として本研究室のメンバーに加わりました。先生の研究経験や知見はもとより、はつらつと実験をする姿からは、研究の厳しさ、楽しさ、時間配分から体の動かし方まで、卒研生もスタッフも学ぶことが多いです。

共同研究の輪も広がり、大阪大学、国立科学博物館筑波実験植物園、日産化学工業株式会社、日大生物資源科学部、日大松戸歯学部の研究者の方々、薬学部内の先生方と研究を進めることができました。

カテコールO-メチル転移酵素研究チームの高橋慶伍さん、鈴木光一さん、渡邊凌さんは、薬学会で2題のポスター発表を行いました。セッコク属植物研究チームの菊地泰平さん、清水玲子さん、吉野桂一さんは、薬学会と日本植物園協会第51回大会にてポスター発表を行いました。発表では、皆緊張した面持ちでしたが、質問者の方々と積極的に討論しました。昨年からは生体反応の調査研究を折原菜緒さんが担当しました。教科書では古くから書かれている生体反応にも新しい研究がなされていることも多く、我々も勉強になりました。

大学院4年生の蔣文君さんは、フラボノイドのマクロフェージ活性化抑制活性の構造活性相関を研究し、高活性の非天然型フラボノイドを見出しました。この成果について、生理学研究所研究会 天然薬物研究方法を考える若手の会（10月）でポスター発表、第44回構造活性相関シンポジウム（11月）では口頭発表を行いました。日本語での準備は大変でしたが、貴重な経験を積みました。第一著者で論文2報を出版しました。蔣さんは本年3月博士号取得の予定です。

忘年会（掲載写真）には多くのOB、OGも参加してくれました。病院・薬局・企業・公務員と、多方面で活躍している卒業生の話を聞くことは教員には嬉しいことであり、学生の指導の参考になること

も少なくありません。在校生は、就職活動、卒試、国家試験に向けての心構えを熱心に聞いておりました。忘年会以外にも時間を作って研究室を訪問してくれたOB、OGもいます。卒業生のみなさん、お待ちしております。

末筆ながら、本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、会員皆様のより一層のご発展をお祈り申し上げます。(高宮 記)



医療薬学研究室 (3号館4階348)

桜薬会会員の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

医療薬学研究室は、昨年3月に定年退職された安川憲教授が主宰されていたセルフメディケーション学研究室を引き継ぐ形で開設された研究室です。従来通りのセルフメディケーション分野の研究に病院や薬局などの医療現場で活用できる研究内容を加え、幅広く多角的な観点で研究を行っていく方針です。

10月から岸川幸生が着任し、野伏康仁助教と2人体制で4、5、6年生の教育と研究に取り組んでおります。現在は4年生4名、5年生7名、6年生4名が所属しています。4年生は共用試験OSCEとCBTを終え、初めての医療現場での実習(実務実習)の準備とともに卒業研究に着手し始めています。5年生はIII期の実務実習に3名が参加しており、既にI期とII期で実習を終えた4名は、卒業研



究の詰めと国家試験対策に励んでいます。6年生はいよいよ薬剤師の登竜門である国家試験に焦点を絞り日々学習に勤しんでいます。

研究室では、昨年末、安川先生をお招きして忘年会を開催しました。教員も学生も安川先生を囲み、楽しい一時を過ごしました。快く参加して下さった安川先生に心から感謝申し上げます。このように従来からの人のつながりを大切にする研究室の姿勢を継続し、さらに充実させていきたいと考えています。

末筆ながら、会員皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。 (岸川 記)

健康・スポーツ科学研究室 (6号館1階616)

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面において益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。健康・スポーツ科学研究室の近況についてお知らせ致します。

昨年は当研究室にとって、大きな転換期となりました。今まで、研究室を築き、支え、守りそして発展させてこられた松原茂教授と松尾絵梨子助教が本大学スポーツ科学部に転出されました。2名の先生にかわり、昨年の4月からは私進藤と小沼助教の2名が、当研究室の教育と研究を担当することになりました。若輩者ではございますが、皆様方の暖かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、1月現在、3学年合わせた卒業研究生は15名(男子6名、女子9名)が所属しておりますが、6年生は国家試験に、5年生は卒業研究に、4年生は実務実習の準備にと、各学年それぞれの目標に向かって日々取り組んでおります。

また、昨年の4月には日帰りではありましたが、千葉県鴨川シーワールドに行きまして。観光バスを使用してのツアーで、海鮮浜焼き食べ放題でサザエなどの魚介類を堪能しました。さらに、鴨川シーワールドの可愛い海の動物達に会い、楽しいひと時を過ごすことができました。今年は、卒研生たちの親睦をさらに深める意味でも卒研旅行が実現できればと思っております。

現在、当研究室は5年生の卒業研究が本格化しております。実験3名そして演習2名ずつに分かれ、7月初旬の卒業研究発表会のポスター作りと卒業論文の完成に向けて、日々奮闘しております。

最後になりましたが、会員皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。 (進藤 記)



研究室同窓会

第37回薬品分析学研究室同窓会開催報告

第37回薬品分析学研究室同窓会が平成28年6月19日（日）午後1時から東京・市ヶ谷のホテルグランドヒル市ヶ谷西館オリオンの間で行われました。出席者は会員34名、研究室関係者5名（栴澤先生、木村由美子先生及び現教員3名）、卒業研究生26名（6年生7名、5年生10名、4年生9名）の総勢65名でした。

まず、第1部総会は、開会の辞が会長の大竹富治氏（31期）から述べられ、岸田邦雄氏（14期）により会計報告、牛込陸阜氏（14期）により会計監査報告が行われた後、閉会の辞が大竹会長から述べられました。

次に、第2部は特別行事として名誉教授 栴澤洋三先生の傘寿・瑞宝小綬章叙勲のお祝いの会が行われました。最初に私（四宮）がご挨拶をさせて戴き、栴澤先生のご功績を紹介致しました。栴澤先生のご受章は、分析化学の分野において新規分析方法の開発に貢献されたことに対するもので、1）ポーラログラフィーの医薬品分析への応用に関する研究、2）向流クロマトグラフィーに関する研究、3）無担体分配電気泳動法に関する研究及び4）微細藻類によるCO₂固定に関する研究が主な対象です。なお、向流クロマトグラフィーの研究は現在も研究室で

引き継いでいます。次いで清水慶子氏（9期）から記念品授与、25期有志一同を代表して大野幸夫氏から花束が贈呈されました。続いて栴澤先生にご挨拶を戴き、御茶の水での昔懐かしい研究の日々に皆



薬品分析学研究室同窓会①



薬品分析学研究室同窓会②



薬品分析学研究室同窓会③

様を誘われました。傘寿を迎えてなお鮮明なご記憶は衰えず、ご参会の方々のお名前もすぐに思い出しておられました。くれぐれもご健康に気をつけてお過ごし戴ければと存じます。

第3部懇親会は、大竹会長のご挨拶、前田圭一氏（8期）の乾杯のご発声で始まりました。しばらく歓談した後、私が研究室紹介、張替准教授、在間助教が近況報告を行いました。その後、余興として、4年生による人気アニメ「妖怪体操」のパフォーマンスが披露され、会場は和やかな雰囲気になりました。更に学生達から自己紹介と抱負が述べられた後、小林郁夫氏（10期）からご挨拶を戴いて中締めとなりました。本会がますます魅力的な会となり、懐かしさと共に明日への励みになる会となるよう更なるご支援をお願い申し上げます。今年も11月中旬の開催を予定しておりますので、ご参加をお待ちしております。

（四宮 記）

生薬学研究室同窓会「りんどう会」

平成28年10月2日（日）に、生薬学研究室の同窓会である「りんどう会」が日本大学桜門会館にて開催されました。昭和31年卒業生から平成28年3月卒業生までの様々な世代の同窓生39名が集まりました。残念ながら、卒業試験、病院・薬局実務実習などの時期と重複する日程での開催だったため、現卒研究生達の参加は叶いませんでした。

まず初めに、藤原忠美会長（昭和53年卒）から開会のご挨拶いただき、その後松崎桂一先生より現在の大学や研究室の状況などを交えた報告がありました。渋谷 正さん（昭和46年卒）に乾杯のご発声いただき、終始なごやかムードで会は進行致しました。会の途中では、参加者全員に近況報告をしていただきましたが、持ち時間1分というルールの中では収まらないスピーチの様子から、充実した生活を送られていることがうかがえました。社会人1・2年目の卒業生からは、薬剤師としての風格漂う発言を多数聞くことができ、我々研究室スタッフとしては成長を大変嬉しく感じます。会の最後には恒例の集合写真を撮影し、お開きとなりました。本同窓会開催にあたってご尽力下さった皆様に感謝申し上げます。残念ながら今回ご都合つかなかった方は、次回は是非ご出席ください。

（矢作 記）



地区支部・職域支部だより

東桜会研修会開催報告

第48回東桜会研修会は秋色がぐっと深まる平成28年11月10日に市ヶ谷の桜門会館において開催されました。参加者は24名でした。小松裕明（S55卒）会長の挨拶に始まり、薬学部校友会の内倉和雄会長をお招きし、校友会の現況や今後の活動についてお話をいただきました。そのなかで卒業生と大学の橋渡しの存在である校友会を大いに活用していただき、同期会のみならず先輩後輩が集う研修会を積極的に開催されることを望んでおられました。

さて、今回の研修は、

講演1 「実務実習カリキュラムの変更と取り組み～薬学部教育の現場から～」

日本大学薬学部 安部恵先生（H6卒）

講演2 「ドラッグストア業界の現状と今後の展望～健康サポート薬局とかかりつけ薬剤師～」

マツモトキヨシホールディングス 大竹富治先生（S61卒）

という内容でした。我々の時代には無い、恵まれた環境の中で新しいカリキュラムが組まれておりますが、体験型実習や処方提案など今後求められる課題も多いことが分かりました。また、診療報酬の改訂が経営に与える影響の大きさなど厳しい現状もお示しいただきましたが、積極的な地域活動の報告や新しい業務展開の紹介など未来の薬剤師が希望を持てるような仕事にしたいという先生方の熱い思いがひしひしと伝わる有意義な内容でした。

その後の懇親会は場所を移し、澤地次雄初代会長（S34卒）の乾杯の御発声のもと和やかな雰囲気の中で行われました。



平成元年から東京の病院に勤務する薬剤師を中心に始めました東桜会ですが、このたび校友会の後援を受け、東京支部としての活動の記念すべき第一歩となりました。そして、薬薬連携、オール薬剤師、絆という時代背景を汲み、薬局、学校、製薬企業などで活躍する日大卒の薬剤師にお声がけを広げております。

研修会の案内などをご希望される方は当会までご連絡ください。“気軽に参加、気さくな仲間”をモットーにしております会長以下、心よりお待ちしております。

（小松崎康文（H8卒）記 komatsuzaki.yasufumi@nihon-u.ac.jp）



香川県支部総会報告

平成 28 年 12 月 4 日（日）午後 1 時より J R ホテルクレメント高松 2 階「瀬戸」にて香川県支部校友会を開催しました。本部より空路小雨まじりの中、内倉和雄薬学部校友会会長をお迎えし地元の参加者含め 8 名で行いました。瀬戸内海のおいしい日本料理をいただきながら内倉会長より母校の新しい事業や国家試験の合格率など、地方会員には詳細に知る機会が少ない貴重なお話を聞かせていただき、遠く昔の学生時代を懐かしく思い出しました。

内倉会長より薬学部広報をご持参いただき参加者全員にいただきました。会長と同期の私は昭和 44 年の大学紛争のバリケードで教室に入ることもできず転々と場所を移動しての授業や、3 月 31 日の夜に三福会館で卒業証書を受け取り 4 月 1 日の国家試験を受験しに行ったことなど懐かしく思い出しました。いつの間にかビールから栗焼酎「ダバダ」に移り、会も各々の近況に花がさき来年も第 2 回を開催することを皆で話し合いました。

あっという間に時間が過ぎ閉会のあいさつは開催の準備をすべてして頂いた木下先生にお願いしました。その後全員がホテル 1 階のロビーでコーヒーを飲みながら夕刻 5 時まで続き、本当に和気あいあいと親交を深める一日となりました。晴れていれば瀬戸の島々や古戦場で有名な屋島も見える高松港のホテルでしたが残念でした。次回は晴れた絶景を楽しみに解散となりました。

内倉会長には「うどん県香川」のうどんを食べていただき木下先生と高松空港にお送りいたしました。来年は 1 人でも多くの恩師や卒業生が参加していただくことができる香川県支部校友会を楽しみに、また友好を深め桜薬会がますます発展することを祈念して校友会報告とさせていただきます。

（香川県支部支部長 三枝和子 記）



第 37 回桜神会

平成 29 年 1 月 11 日（水）、横浜の『ホテルキャメロットジャパン』において、第 37 回桜神会が開催されました。当会は神奈川県内に勤務、在住の日本大学薬学部卒業生（旧工学部薬学科、旧理工学部薬学科を含む）に幅広く声をかけており、今回は新たに 4 名の先生方を加えた総勢 52 名が集まりました。これ程盛大な会を開催できる事は、私達にとって自慢の一つでもあります。

桜神会に先立ち開催された学術講演会では、清水淳一先生（東京都済生会中央病院）より「糖尿病薬～私はこのように説明しています～」について、先生の経験に基づく多くの知見と最新の話題を提供していただきました。厚生労働省の調査によると、糖尿病の患者数は平成 26 年に過去最高を記録し、糖

尿病についての話題は病院や調剤薬局の薬剤師にとっても身近であったと思われます。服薬指導のポイントや処方箋チェックのポイントなど実臨床に直結する知識や、実技を交えた解説は分かり易く具体的であったことから、貴重な講演であったと思われます。

大学からは校友会会長の内倉和雄先生にご出席賜ることができました。内倉先生のご祝辞から始まり、佐藤康信先生（さとう薬局）のご発声による乾杯に続き、ご歓談となりました。会の中盤には、新年の恒例であります、蛭田剛俊先生（ライム薬局）と小串興平先生（横浜新都市脳神経外科病院）による日大節が披露され、会場全体が一体となつての合唱は、とても素晴らしいものでした。

会も終盤に差し掛かり、この度、定年を迎えられた藤本康嗣先生（横浜新緑総合病院）の、これまでの功績に対する感謝のセレモニーが行われました。先生は『薬事功労者厚生労働大臣表彰』を受賞された経験もあり、当会のみならず薬剤師の地位発展にも貢献されています。改めてその功績を讃えお世話になったご恩に対して感謝の思いをお伝えしました。

以上、第37回桜神会のご報告とさせていただきます。 (岡添 進 記)

桜神会に関するお問合せは

桜神会 会長 赤瀬 朋秀（日本経済大学 経営学部・大学院 教授 t-akase@tk.jue.ac.jp）まで



薬学部校友会（桜薬会）ホームページでの求人情報募集

会員からの求人情報の掲載は無料です。求人申込書はホームページの「求人・求職」のページからダウンロードし、必要事項をご記入の上、事務局に郵送（あるいはFAX）してください。なお、「求人・求職」のページを閲覧（ログイン）するには、会員番号IDが必要です。会員番号IDは封筒宛名下にある会員番号の下6桁です。

ホームページアドレス；<http://alumni.pha.nihon-u.ac.jp>

メールアドレス；pha.alumni@nihon-u.ac.jp

桜の木の下で

第11期生同期会の報告

平成28年10月2日（日）、第11期生50周年記念同期会を銀座アスターお茶の水賓館にて開催いたしました。

50年という歳月を記念して思い出のお茶の水での開催といたしました。世田谷、三島から移行して希望に満ちた3年余りの学生生活を過したお茶の水境界も著しく変貌しておりますが、それでも当時の面影を多く見る事ができました。

当日は6名の恩師の先生方のご臨席を賜り、遠く北海道、山口県からの出席者を含め44名の同期生が集いました。桑畑善信さんの司会で始まり代表幹事の鈴木鎮世さんからの挨拶の後、この5年間に亡くなられました9名の同期生の方々に黙とうを捧げました。次に校友会会長の内倉和雄先生、先生方を代表して高橋周七先生、山内盛先生に御挨拶をいただきました後、一昨年旭日小綬章を授与されました稲垣英夫さんの乾杯の音頭で開宴となりました。

研究室単位で各テーブルに着いていただきました為かゆっくりと和気あいあいとした雰囲気、3時間が瞬く間に過ぎてしまいました。一仕事終えた仲間達が青春時代の心に戻って共に語り合えたことは、明日への励みとなった事でしょう。

最後に遠方より出席していただきました御手洗昭子さんの締めで、次回開催を約束して閉会となりました。

5年後の同期会にも多くの方々が参加できますよう祈っております。

（東 厚子 記）



日本大学理工学部薬学科第24期、第25期合同同期会開催報告

平成28年10月29日（土）、お茶の水の東京ガーデンパレスホテルにて日本大学理工学部薬学科、第24期と第25期の合同で同期会を開催しました。

一昨年もこのような先輩・後輩という特別な合同同期会を開催しました。その時は、「なんで2期合同の同期会を開催するのか」と疑問に思う方もいらっしゃいました。しかし、開催してみると「さすが日大、先輩・後輩という壁を作ることなく、素晴らしい時を過ごすことができました。そして、今回もまた同じように開催し、第24期は47名、第25期は59名、総勢106名もの仲間が集まってくださいました。

24期の石塚善久さんの司会のもと、幹事代表25期の目鳥が開会の挨拶、来賓として薬学部校友会会長の内倉和雄先生からご祝辞、副会長の渡邊和子先生から乾杯のご発声をいただき、和やかな会が始まりました。卒業生がアラカンであるにもかかわらず、意気軒昂で学生時代の記憶が呼び覚まされました。2年ぶりの同期会で近況を語りあったり、前回参加できなかった方は数十年ぶりに会った仲間と、その当時のことを語ったり、料理そっちのけで話に夢中になっていました。会の中盤では日大管弦楽団に所属し、今なおコンマスとして活躍している25期の藤本康嗣さんによるバイオリンの独奏がありました。定番である「情熱大陸」が始まると、話をするのを忘れ、皆さん感動していました。「次回は東京オリンピックの年に開催しましょう」、「来年もやろーよ」という声の中、まだまだこの場に居たいと思いつつも、24期の山口良夫さんの挨拶でお開きとなりました。

2次会は同じお店の上下階で24期と25期に分かれて始まりました。前回同様多くの方が参加してくれました。2次会が着席スタイルだったためか、皆さんここからエンジン全開モード。あっちこっちと席を入れ替えては懐かしい会話がまた満開となりました。

今回の合同同期会は同窓会などをプロデュースする会社「笑屋」を介して開催しました。案内状の作成・送付やサイトの立ち上げ、2次会手配など、幹事の負担軽減のためお願いしました。同期会に参加できなかった方も、「笑屋」サイト内で今回の同期会の様子などを視ることができます。是非、ご覧ください。本会、2次会での懐かしい仲間の写真がいっぱいあります。

最後に、第24期、第25期合同同期会の決算で生じたプラス金額は、後輩を愛する日大精神のもと、桜薬会奨学金に寄付させていただきました。

次回の開催に向けて、行方不明の方も多く、連絡のとれる方がいらっしゃいましたらご一報ください。

24期 病原微生物学研究室 村山琮明 E-mail: murayama.somei@nihon-u.ac.jp

25期 分析センター 目鳥幸一 E-mail: metori.kouichi@nihon-u.ac.jp

第24期、第25期合同同期会幹事一同



薬学科 18 期同期会（昭和 48 年卒）

答探しの青春グラフィティー

平成 28 年 11 月 12 日 銀座アスター お茶の水賓館で行われました。前日までの雨も上がり、都内から富士山が望めるほどの小春日和でした。毎年行われているこの同期会は、これまで日曜日に開催されてきました。今年は趣向を変えて土曜日の昼食会としてみました。第一線で活躍されている方も多く、この時間帯での参加が難しい方も多かったようです。例年に比較して参加者は少なく 17 名でした（昨年は 32 名）。多くの人と旧交を温めることを目的とした同期会として、次回開催の反省となりました。

前期高齢者となり、やや衰えつつある脳を活性化させるため、池田 光先生を講師としてお招きし「運命学」について講演をしていただきました。これまでの同期会は近況報告、語り合い、そして飲み会が中心でした。薬学、医学関係以外の「講演」を取り入れたのは初めての試みでした。全員メモを取りながら学生時代と同じく、真剣に聴講いたしました。

私達が大学を目指したのは昭和 44 年。日本の歴史の中で、唯一この年だけ東京大学と東京教育大学（現筑波大学）の入学試験が行われませんでした。東大に入学願書を出した一人ひとりに受験料返戻のお知らせと、加藤一郎東大総長からお詫びの手紙が届いたものです。当時は「偏差値」や「センター試験」による振り分けなどなく、自由に志望する学校を受験出来た。そんな時代でした。

この年、薬学科（当時理工学部）に全国から集まった学生は多士済々、個性豊かな人の集まりでした。大学は「国家試験対策」などという無粋なものを学生に押しつけることはありませんでした。自由闊達な校風の中で勉学、研究そして他学科との交流も多く、学生時代を謳歌させていただきました。薬剤師国家試験に失敗する人が少なかったことも付け加えさせていただきます。

私達の青春時代はベトナムで多くの若者が血を流していました。ラジオの深夜番組で流れていたのが Bob Dylan の Blowin' In the Wind（風に吹かれて）。平和について世界中の若者が真剣に考えていた時代です。青年は歳を重ね、歌は風と共に流れてノーベル文学賞を受賞。会場では Bob Dylan の曲が流されました。

習志野キャンパスの芝生に座ってそれぞれの希望を語りあったこと、お茶の水の喫茶店で人生を語ったことなど全てが楽しく、懐かしい思い出として蘇って来ました。そんな人たちの同期会で話が尽きることはありません。会えばいつでも、過ぎ去ったはずの青春時代に戻ることが出来ます。そしてこの仲間の存在が、これからの人生をより豊かにしてくれるのです。

来年、また元気に集うことを約束してお開き。手を振りながらそれぞれ家路につく姿は、教科書を小脇に抱え「じゃまた明日ね」と別れた学生時代と全く変わりませんでした。

明日からまたどんな人生を歩んでいくのか、風に吹かれて…答えは未だ風の中。

（大川 記）



第七期生同期会報告

平成 28 年 11 月 13 日（日）、新お茶の水ビル 21 階「銀座アスターお茶の水賓館」に於いて、第七期生同期会が開催されました。今回は 28 名が集い、来賓に内倉和雄桜薬会会長及び前会長の山内盛先生をお迎えしました。

平成 16 年以来、同期会は毎年開催されていますが、毎回、遠方から参加して頂いている皆さんとの再会は特に嬉しいことです。札幌から町田氏、呉から上田さん、北陸新幹線のお蔭で富山から高田氏および金沢から 34 年ぶりに山岸氏、名古屋から下田氏、豊田から安田さん、長野から藤原（英）氏の、更に小泉エミさんの初めての参加もあり、互いに元気を貰いながら楽しい時間は瞬く間に過ぎていきました。続きは、例年のように同ビル地下街の居酒屋に席を移し、過ぎゆく時間を惜しみつつ、再会を約してお開きとなりました。平成 29 年は卒後五十五周年になります。多くの皆様のご参加をお願い致します。

写真前列左から：高田十三男、山岸清助、守屋芳子、藤原充雄、内倉和雄桜薬会会長、山内盛先生、諏訪佐智子、上田民恵、小泉エミ。中列左から：川生洋子、池田梅子、青木千勢子、下田富郎、豊田明、伊藤善明、藤原英明、安田園子、深谷仁恵、久田三郎。後列左から：田中孝治、町田實、長谷川順子、黄川田幸正、正田貞雄、高澤克昌、一色捷一、小山征治、望月恵美子、中居慶一。上段：市川美知子（敬称略）
（藤原充雄 記）



日大薬岳会 第6回親睦会の報告

恒例となった旧日本大学薬学科山岳同好会（略称 日大薬岳会）の6回目の会合を平成 29 年 1 月 29 日午後 1 時から市ヶ谷駅前の桜門会館で開催。今回は 23 名が出席し遠方の出席者では、北は仙台から斯波氏、南は岡山から佐伯氏で、多くは首都圏からの参加であった。開会前に定刻に集まったメンバーで集合写真を撮った。

司会は吉政氏。最初に昨年逝去された会員（栗原義光氏 37 年卒）に黙祷。

今回の幹事長の小清水氏から、本来ならば昨年秋に開く予定であったが諸般の事情でこの時期になったなどの挨拶。乾杯の音頭を最も遠くから出席の佐伯氏が言い歓談に入った。我々の仲間から叙勲されたことの披露があり、昨年秋に杉山義夫氏が旭日双光章を、また増井武夫氏が瑞宝双光章をそれぞれ授与され、両氏から受賞の経緯の話があった。続いて、一昨年 10 月に行った上高地山行（穂高・岳沢

で遭難死した36年卒加納平蔵氏追悼を兼ねた)についてスライドを用いて田中孝治氏から報告があった。総勢14名が参加した一泊の山行で、お天気に恵まれ紅葉の上高地周辺や明神池などのきれいな風景が次々と映写され、参加した人も参加しなかった人も一様に頷きながらスライドに見入った。さらに昔の山の道具のスライドが映し出され、鈴木至氏が学生時代に使っていたキスリングとシェラフの写真で、彼が丹念に手入れをして写真に撮りそれを田中氏がスライドにしたものである。皆が使っていた当時の懐かしい山のレガシーであった。スライド終了直後に、突然、二人の先輩から話が出て、遭難死した加納平蔵氏のことや母親の息子を想う話には目頭が熱くなった。しばしの歓談後、出席した一人ひとりに近況を語ってもらった。自分の健康のこと、身内のこと、薬局経営のことなど様々な状況下で各自が頑張っていることがよく分かる話であった。最後に、幹事長から今後のこの会の進め方、山ならばどこへ行きたいか、連絡のmail addressなど今後の運営上について提案があり討議した結果、首都圏から近場のところに一泊程度で夏か秋に行くことを案とした。終了後に開催前に撮った集合写真を各出席者に渡し、郵送代を節約。次回の再会を楽しみに午後4時10分にお開きとなった。

(藤沼茂雄 記)

出席者:34年:山内盛 35年:大河内宏明 37年:小山征治 斯波公次郎 高澤克昌 田中孝治 39年:佐伯友貞 杉山義夫 須山百合子 西上浩平 吉田哲郎 40年:田辺滋允 力石和美 土川利昭 増井武夫 42年:小清水敏昌 43年:上野直毅 郡司勝之 中村欣一 44年:鈴木至 高野辰雄 藤沼茂雄 吉政和男 (数字は卒業の昭和年号)



物故者名簿：心よりご冥福をお祈り申し上げます。(2017.01.31 現在)

| | |
|------------------------|--------------------------------|
| 正会員 | 15期 水戸 (多武保) 久子 (2016. 06. 23) |
| 2期 澤野俊彦 (2016. 01. 05) | |
| 2期 松本忠 (2016. 07.) | 41期 高瀬尚一 (2010.) |
| 3期 堺仁 | |
| 3期 鈴木雅 (2016. 04. 29) | 特別会員 |
| 8期 小杉好通 (2016. 11. 22) | 長谷川 稔 (2016. 12. 10) |

校友会事務局に、死亡日時、葬儀日時、会場、喪主をご連絡いただければ、会より弔電を打たせていただきます。

薬学部 ニュース

学園祭（桜薬祭）

第28回桜薬祭が平成28年10月29日（土）・30日（日）に開催されました。今年のテーマは「文武桜道～まだ若いんだから青春を楽しみなさい～」、皆さんに楽しんでほしい、青春してほしいという願いを込めたそうです。

校友会主催による恒例の桜薬クイズを皮切りにサークル団体による模擬店の出店、ステージ企画、展示発表等が催されました。6年制薬学教育は年々高度な内容となり普段の学生生活も大変になる一方ですが、この日はテーマどおり、青春を謳歌し大いに盛り上がった学園祭となりました。

薬草教室

第23回薬草教室が平成28年10月30日（日）に開催されました。講師に日本大学薬学部元教授の安川憲氏をお迎えし、「薬草サプリメントの正しい知識～情報の解釈の仕方～」と題し御講演をいただきました。受講者は先生の分かりやすいお話に興味深く学んでおりました。

講演終了後、希望者は松崎教授、矢作助教の案内で薬用植物園を見学し、先生方の解説に熱心に耳を傾けておりました。

薬用植物園は薬草教室、公開講座、オープンキャンパス開催時に公開しています。平成29年度の公開日時等については薬学部ホームページを御参照ください。

学術講演会

第27回薬学部学術講演会が平成28年11月5日（土）に821 B講義室にて開催されました。70名が参加し、医療薬学系、生物学系、化学系、共同研究、萌芽探求型研究及び海外報告の6区分から14演題が発表され、活発な討論が行われました。

共用試験

平成28年12月11日（日）にOSCEが、平成29年1月8日（日）・9日（月・祝）にCBTが4年生に対してそれぞれ実施されました。この2つの試験は、薬学生に必要な知識、技能及び態度を総合的に評価するものであり、この試験に合格しなければ翌年行われる薬学実務実習を実施することができなくなります。学生たちは日頃、対策講座や実務事前実習で培った成果を発揮して合格できるよう、緊張の中、試験に臨んでいました。

薬学部入学試験

入学試験（A方式）は平成29年2月5日（日）に行われました。志願者数は1,299名で昨年度より153名減少しました。試験は船橋試験場、東京試験場の2会場で実施しました。

また、全学統一入試であるN方式を平成29年2月1日（水）に行い、志願者数は275名で昨年度より125名増加しました。

生涯教育講座

平成28年度も薬剤師のスキルアップへの貢献を目指して、4月より日本大学薬学生涯教育講座として「最近のトピック」、「ファーマシューティカルケアの最前線」、「ブラッシュアップセミナー」、「大学院（土曜）講義受講コース」及び「薬剤師実践セミナー」を開催しました。平成29年度も引き続き開

講いたします。開講予定等については薬学部ホームページを御参照ください。

教員の人事

1 役職発令 (2017. 4. 1)

① 担当発令

- (1) 学務担当 松本 宜明 教授 (臨床薬物動態学)
- (2) 学生担当 木澤 靖夫 教授 (機能形態学)
- (3) 企画・広報担当 日高 慎二 教授 (医薬品評価科学)
- (4) 研究担当 榛葉 繁紀 教授 (健康衛生学)
- (5) 就職指導担当 山中 健三 教授 (環境衛生学)
- (6) 図書館分館長 金子 利雄 教授 (英語1)

2 教授発令 (2017. 4. 1)

① 昇格

- (1) 内山 武人 (有機化学)

3 准教授発令 (2017. 4. 1)

① 昇格

- (1) 渡邊 文之 (薬剤師教育センター)

4 専任講師発令 (2017. 4. 1)

① 新任

- (1) 金沢 貴憲 (薬剤学)

② 昇格

- (1) 高宮 知子 (生体機能化学)
- (2) 宮本 葵 (臨床薬物動態学)

③ 職種変更

- (1) 堤 大輔 (薬剤師教育センター)
<医学部附属板橋病院薬剤部から>

5 助手発令 (2017. 4. 1)

① 再任

- (1) 元吉 尚美 (薬学教育研究センター)

6 所属替え (2017. 4. 1)

<異動先> <異動元>

- (1) 亀井美和子教授 (薬事管理学) (医療コミュニケーション学)
- (2) 渡邊文之助教 (薬剤師教育センター) (医療コミュニケーション学)

7 退職

① 定年 (2017. 3. 31)

- (1) 白神 誠 教授 (薬事管理学)
- (2) 伴野 和夫 教授 (薬剤学)

② 任期満了 (2017. 3. 31)

- (1) 三枝 良安 特任教授

薬学部校友会 (桜薬会) ホームページの ID

日本大学薬学部校友会ホームページの「校友会会則」・「求人・求職のコーナー」・「運営委員会資料」を見るには ID とパスワードが必要です。

ID は宛名の下にある正会員番号の下 6 桁 (半角)、パスワードは氏名 (全角カタカナ) になります。ID・パスワードは毎年 10 月の末に一括更新しております。毎年 3 月に卒業された方は、10 月までは学生時の ID・正会員の ID どちらでも見られますが、それ以降は正会員の ID をお使いください。氏名の変更をお届けいただいた方は、10 月までは旧氏名となります。

平成 30 年度日本大学薬学部入学試験期日及び科目等

| | 一般入学試験A方式 | 一般入学試験N方式 | 一般入学試験C方式 |
|----------------|---|---|--|
| 1 募集人員 | 95名 | 12名 | 10名 |
| 2 出願資格 | 日本大学入学試験 要項に同じ | 日本大学入学試験 要項に同じ | 日本大学入学試験 要項に同じ |
| 3 出願書類 | ① 入学志願票（出願確認票） ② 出願資格を証明する書類 | ① 入学志願票（出願確認票） ② 出願資格を証明する書類 | ① 入学志願票（出願確認票） ② 出願資格を証明する書類 |
| 4 選考方法 | 学科試験（マークシート方式） ① 理科：化学基礎・化学 60分 【配点 100 点】 ② 数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ・ 数学A・数学B （確率分布と統計的な推測を除く）60分【配点 100 点】 ③ 外国語： コミュニケーション英語Ⅰ・ コミュニケーション英語Ⅱ・ 英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ 60分【配点 100 点】 ※上記の得点を標準化得点に換 算し、合否判定する。 | 学科試験（マークシート方式） ① 数学：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・ 数学A・数学B（確率分布と 統計的な推測を除く）」【配点 100 点】 ② 理科：「化学基礎・化学」、 「生物基礎・生物」のうちから 1科目選択【配点 100 点】 ③ 外国語： 「コミュニケーション英語Ⅰ・ コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・ 英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」 【配点 100 点】 ※上記の得点を標準化得点に換 算し、合否判定する。 | 学科試験 ① 数学：「『数学Ⅰ・数学A」、 『数学Ⅱ・数学B』」【配点 200 点】 ② 理科：「化学」【配点 200 点】 ③ 外国語：「英語」【配点 200 点】 ※理科において2科目受験した 場合は、第1解答科目が「化学」 の場合のみ合否判定に使用す る。英語についてはリスニン グの成績は利用しない。理科 については、大学入試セン ター試験の配点を上記の配 点に換算し、合否判定する。 |
| 5 出願期日 | 平成 30 年 1月8日（月）～29日（月） 窓口受付： 1月28日（日）・29日（月） | 平成 30 年 1月8日（月）～24日（水） 窓口受付： 1月23日（火）・24日（水） | 平成 30 年 1月8日（月）～13日（土） 窓口受付： 1月13日（土） |
| 6 選考日 | 2月5日（月） | 2月1日（木） | 大学入試センター試験 1月13日・14日（土・日） |
| 7 合格発表日 | 2月9日（金） | 2月9日（金） | 2月9日（金） |
| 8 入学手続締切日 | 2月16日（金） | 2月16日（金） | 2月16日（金） |
| 9 入学検定料 | 35,000円 | 35,000円 | 18,000円 |
| 10 試験会場 | 船橋，東京 | 日本大学一般入学試験 N方式試験場 | 大学入試センター試験場 |
| 11 出願書類 送付先 | 日本大学入試センター | | |

※1 一般推薦入学試験（指定校制）（募集人員 10 名）は、11 月 8 日（水）実施。

2 付属高等学校等推薦入学試験（基礎学力選抜）（募集人員 90 名）は、11 月 8 日（水）実施。

3 付属高等学校等推薦入学試験（国公立併願方式）（募集人員 2 名）は、11 月 8 日（水）実施。

| | 一般推薦入学試験（公募制） | 校友子女入学試験 |
|------------|---|---|
| 1 募集人員 | 20名 | 5名 (合格基準に達しない場合には、合格者数が募集人員に満たないこともある) |
| 2 出願資格 | 本学部での学業を強く希望し、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者で次のいずれかに該当し、出身学校長が推薦する者 ① 高等学校もしくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者で、高等学校第3学年第1学期までの全体の評定平均値が3.5以上の者 ② 高等学校もしくは中等教育学校を平成29年3月に卒業した者で、卒業時の全体の評定平均値が3.5以上の者 | ① 大学入学資格を有し、本学部への入学を第一希望とする者で、次のいずれかに該当する校友の子女（法定血族を含む2親等内直系血族）である者。 ただし、法定血族の場合は、大学入学年度の3年前の4月1日以前に養子縁組をしていること。 ② 合格した場合、本学部に入学することを確約できる者 |
| 3 出願書類 | ① 学校長推薦書 ② 自己推薦書 ③ 入学志願票 ④ 出身学校調査書 | ① 校友子女確認書 ② 入学志願票 ③ 出身学校調査書等 |
| 4 選考方法 | ① 書類選考 ② 面接 ③ 参考試験（マークシート方式） (1) 化学基礎・化学（高分子化合物の性質と利用を除く）45分 (2) コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ 45分 | ① 書類選考 ② 面接 ③ 参考試験（マークシート方式） (1) 化学基礎・化学（高分子化合物の性質と利用を除く）45分 (2) コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ 45分 |
| 5 出願期日 | 平成29年 11月1日（水）～3日（金） | 平成29年 11月1日（水）～3日（金） |
| 6 選考日 | 11月8日（水） | 11月8日（水） |
| 7 合格発表日 | 11月11日（土） | 11月11日（土） |
| 8 入学手続締切日 | 11月20日（月） | 11月20日（月） |
| 9 入学検定料 | 35,000円 | 35,000円 |
| 10 試験会場 | 日本大学薬学部校舎 | |
| 11 出願書類送付先 | 〒274-8555 千葉県船橋市習志野台7-7-1 日本大学薬学部 Tel 047-465-8480（直通） | |

☆校友子女入学試験について

日本大学校友会では「特別優待生制度」として校友子女入学試験により入学した者のうち、出願締め切り日現在で父母または祖父母（法・商学部は父母のみ）が有効な日本大学校友会正会員である者に対して、奨学金（図書費）を給付します（初年度のみ）。実施期間など詳細については薬学部校友会事務局にお問合せください。

第 15 回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

● テーマ：教育について ●

日本大学医歯薬獣の4師が糾合して始めた学術講演会も第15回を数えるまでになり、9月24日（土）に生物資源科学部獣医学科校友会（角笛会）が当番幹事となって日本大学会館大講堂で開催されました。参加人数は123名で、薬学部校友会からは17名が参加されました。

今回の講演テーマは「教育について」であり、各学部卒業生の演者からそれぞれの立場で講演が行われました。

薬学部校友会からは、慶応義塾大学薬学部教授・医療薬学社会連携センター長の中村智徳先生（理工学部薬学科・平成元年卒）が講演をされました。講演内容は、「我が国の薬学部における薬学教育の現状と将来展望」についてです。講演では、薬学教育において、基礎的な知識や技能はもちろん、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、課題発見能力・問題解決能力、医療現場で通用する実践力などを身につけることが求められていることを強調されました。まさにこの時代の要請に応えるためであり、現在の医療環境や制度を考慮し、医療の担い手としての薬剤師養成を主眼とした新たな教育の導入になります。これは薬学教育6年制における教育目標でもあります。また、チーム医療に積極的に参画していくには、医薬品の安全管理能力が求められることから、これを念頭に大学、病院・薬局実務実習などを通して育成していくことの大切さをご自身の臨床経験を交えて話をされました。深化しつつ変化し続ける薬学教育の現状と将来展望について大変有意義な講演を拝聴することができました。

他の医療系同窓・校友会からは、医学部同窓会から「医療系分野におけるシミュレーション教育」、歯学部同窓会から「如何に良質な歯科医師を育てるか」、松戸歯学部同窓会から「授業方略の工夫と記憶・学修効果の向上」、角笛会から「獣医学教育はグローバル化を目指せるか」についての講演がありました。

総合討論では、学生の学修に対する意欲の向上や教育の改善に向けた取り組みについてフロアーからも熱心な質問が相次ぎ、演者と一体となって活発な討論がなされました。

講演会終了後の懇親会では、聴講した校友が認識を新たにするとともに、和気あいあいの雰囲気での交流が行われました。これかも一層の発展が期待されていますので、校友会の皆様には気軽に是非ご参加いただきたいと思います。

（日高慎二 記）



会 務 報 告

平成 28 年度桜薬会賞受賞者

第 25 回桜薬祭実行委員長として活躍した姫野魁人（6 年）さんに、3 月 25 日に举行された学位記伝達式において賞状および記念品が内倉会長より授与された。

平成 28 年度薬学部校友会奨学生

薬学部校友会奨学生選考委員会により、本多莉華（4 年）さん、岸恵美（3 年）さんの 2 名が奨学生候補者として推薦され、薬学部教授会で審議の結果、承認された。なお、11 月 24 日に開催された校友会奨学金授与式で内倉会長より奨学金が授与された。

平成 29 年度薬学部校友会研究奨励金

薬学部校友会研究奨励金研究者選考委員会により、生薬学研究室 助教 矢作忠弘氏が薬学部校友会研究奨励金受領候補者として推薦され、審議の結果、承認された。さらに薬学部教授会で報告された。なお、平成 29 年度薬学部校友会総会・懇親会において授与式を行う予定となっている。

平成 28 年度薬学部校友会（桜薬会）奨学生

薬学部校友会（桜薬会）奨学生選考委員会により応募者 8 名の中から審議の結果、五箇萌遥（5 年）さん、畠山大夢（3 年）さん、鶴田こむぎ（1 年）さんの 3 名に決定した。なお、1 月 13 日に開催された授与式で内倉会長より奨学金が授与された。

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度について

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度は平成 22 年度通常総会で設立が承認されて、専用口座を開設し、校友会会員の方々からの募金及び薬学部校友会桜薬会会報広告掲載料を奨学金の原資としています。平成 23 年度から給付を開始しています。

薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度にご理解をいただきご協力いただきますようお願い申し上げます。

募金は下記振替口座をお願いいたします。
口 座：00120-5-318734（ゆうちょ銀行）
口座名：日本大学薬学部校友会奨学金

会 合 予 告

薬学部校友会（通称 桜薬会）通常総会 並びに懇親会開催のお知らせ

平成 29 年度薬学部校友会通常総会並びに懇親会を下記により開催いたします。
多数ご参加下さいますようお願いいたします。

総 会

日 時：平成 29 年 6 月 24 日（土）
13 時 30 分～ 14 時 30 分
場 所：日本大学薬学部 512 教室
船橋市習志野台 7 - 7 - 1
東葉高速線 船橋日大前駅下車 徒歩 7 分
TEL 047-465-1478（薬学部校友会事務局）
総会終了後、薬学部食堂にて懇親会を開催いたします。

薬学部校友会幹事会開催のお知らせ

通常総会に向けて幹事会を下記日時により新旧幹事合同で開催いたします。
幹事の皆様にはご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願いいたします。

日 時：平成 29 年 6 月 9 日（金）
18 時 00 分～ 20 時 00 分
場 所：日本大学桜門会館 303 会議室
千代田区五番町 2 - 6
最寄り駅：市ヶ谷駅 JR 中央線下車 徒歩 2 分

第 12 期生 卒業 50 周年記念同期会開催のお知らせ

私たちが昭和 42 年 3 月に理工学部薬学科を卒業し今年で 50 周年目を迎えました。既にご案内して
います同期会を再度お知らせしますので、是非ともご出席ください。

日 時：平成 29 年 5 月 27 日（土） 午後 1 時から
場 所：JR お茶ノ水駅下車 「山の上ホテル」 ☎ 03-3293-2838
幹 事：小清水敏昌／斉藤芳久／嶋村勝彦／中村千恵子（森）
長谷川克子（西村）／原田隆子／星隆志／増渕美子
連絡先：小清水敏昌 t-koshi@rd5.so-net.ne.jp
原田 隆子 090-1408-7418

開催予告 S HW around48 の会 (41 期主催の同窓会)

この度、昭和 48 年とその前後にお生まれの日本大学薬学部卒業者を対象とし、横と少し縦の親睦を深める同窓会を企画しました。奮ってご参加ください。

【日時と場所】 平成 29 年 5 月 14 日 (日)

研修会 14 時から 懇親会 16 時頃から ともに市ヶ谷桜門会館にて

【研修内容 (予定)】 研修センターシール申請中

- アロマ・ハーブへのご招待 ～補完・代替療法の中の位置付け～ 有野 仁子 氏
- あれから 20 年 薬学教育のいま! 安部 恵 氏
- 私の研究テーマを少し紹介します! 大場 延浩 氏

【会費】 当日受付時に徴収致します

- ①研修会と懇親会 4,800 円 ②研修会のみ 480 円

メール申込先 shwa48@yahoo.co.jp 5 月 9 日まで (先着 96 名)

お名前, 卒年, 連絡先 (メールアドレスなど), 参加区分①②, 近況等をお教えてください。

【運営メンバー】 代表幹事 小松崎康文 (平成 8 年卒)

松原 (竹下) 恵利香, 安部 (安藤) 恵, 川口浩史, 有野仁子, 大場延浩, 小山秀樹, 吉田圭吾

伴野教授御退任記念祝賀会開催のご案内

伴野和夫教授のこれまでのご指導に対して感謝の意を表したく、このたび退任記念祝賀会を開催する運びとなりました。御多忙とは存じますが、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

日 時: 平成 29 年 5 月 28 (日) 正午～14:00 (受付開始 11:30～)

場 所: ホテル東京ガーデンパレス 3F『白鳳』

(JR 御茶ノ水駅 徒歩 5 分、<http://www.hotelgp-tokyo.com/map/index.html>)

会 費: 10,000 円 (6 年制卒業生は 8,000 円)

発起人: 陶 慶芳, 福岡誠次, 石井良和, 梅田由紀子, 菅野君子, 日高慎二, 林 宏行, 鈴木重由, 深水啓朗, 古石誉之, 森木誉嗣昭, 福島恵太, 安部圭紀, 羽田敬宏

※下記 URL あるいは右記 QR コードを読み取り、出欠に関する必要事項を 4 月 30 日までにご入力下さい。なお、祝賀会にご欠席の方で記念品贈呈にご賛同される方は、記念品代 2,000 円の拠金を下記口座までお振込み下さいますようお願い申し上げます。

< <http://sabik.med.toho-u.ac.jp/prof-tomono/> >



伴野教授御退任記念祝賀会事務局

鈴木 豊史: suzuki.toyofumi@nihon-u.ac.jp

鈴木 直人: suzuki.naoto65@nihon-u.ac.jp

TEL&FAX: 047-465-6699

記念品代振込先: 三菱東京 UFJ 銀行津田沼支店 普通口座

口座番号: 0952235

口座名義: 伴野教授御退任記念祝賀会 会計 鈴木直人

会費納入報告

財務委員会

会費を納入された方の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがありましたらお知らせください。本部準会員（学生会員）会費納入者は、人数のみのご報告とさせていただきます。

（平成 28 年 8 月 1 日～平成 29 年 1 月 31 日）

会費納入者

2,000 円納入者

57 石原スミエ、大淵勝範、近藤泰夫、野田文子、野田正道 58 伊勢忠、根岸純子、星田郁代 59 種谷サトミ 60 吉川登志江 61 新沢彰 62 青木千勢子、中島貞夫 63 栗島國利、芝紀代子、平井紀一 64 中村徹久 65 高田定一 66 松本好正 71 萩原裕子、日南田義隆 77 長瀬健市、富士本稔、山口洋子、山下仁志 78 高橋真 79 柳典子 82 久保光正、田嶋美智子 83 長井一彦 85 杉中淳、箕浦雄二 86 渡部靖宏 88 豊嶋徹 93 加藤隆之 94 小西寿子、武山蘭子 95 今田吉宣 04 細川智弘 以上 39 名

4,000 円納入者

56 山崎俊子 59 國友玲子 64 栗原勝彦 72 相田美子 74 境恭子 81 谷川清澄 82 青木克美、吉岡正明 以上 8 名

6,000 円納入者

56 小山隆、斎藤美智子 以上 2 名

10,000 円納入者

57 古賀鉄也 58 堺和子、堺仁 59 椋澤洋三、小林早苗、榑崎近、羽尾露子 60 山本忠宏 61 石塚起久子、清水公乃、鈴木保行、藤本康雄 62 上谷知子、高澤克昌、寺田和子、平林正行、間瀬泉 63 伊藤道子、三浦庄二 64 佐藤美智枝、菅井昌子 65 近絢子、米川幸子 66 東厚子、学坂泰子、中島卯一 67 古池輝久 68 中村欽一、中村光子 69 牛込昌子、三枝和子 71 三枝武博、茂木徹 72 高田春美 72 増田きよ美、宮本俊男 73 高橋啓子、高橋早苗、福地幹男、山本美枝子 75 嶋元 76 平岡芳子 77 阿久津則子、広瀬丈祐、山本かおる 78 石井博幸、奥山弘明、三枝章人、久枝久美 79 西村忠洋、増田修也、宮崎由美 80 栗太隆、小島敏行、都築素美、藤本康嗣 81 今関秀雄、木下尊文、佐藤明広 82 久米実、小松久恵子、福富大樹 84 石川達也、岸田朋子、濱田美智子 85 阿部由紀子、葉勝富 86 岡崎恵美 87 浅田雅子 87 菅谷佐知子、小菅孝恵 88 小野塚純久 90 岩瀬希衣子 91 下山真理子 92 浦和美穂 93 峯岸一夫 94 古村江理、富田英子 95 匿名、三枝香織 96 佐藤洋子 00 富田歩子 03 橋紗ら 06 羽賀健悟、吉田聡 07 丹原由希、大槻マキ 以上 87 名

12,000 円納入者

72 川田嘉子 以上 1 名

20,000 円納入者

67 地曳利雄 86 稲垣裕子、三木久美子 90 匿名 99 木崎大賀 05 大木智恵 以上 6 名

100,000 円納入者

66 水戸部道典 以上 1 名

平成 28 年度本部準会員会費納入者 (薬学部校友会へ還付があった者)

学部 2 年 1 名 博士 2 年 1 名

学部 3 年 4 名 博士 4 年 1 名

学部 4 年 6 名

学部 5 年 4 名

学部 6 年 8 名

以上 25 名

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金寄付者

64 渡邊和子 76 小原千恵子、本橋重康 01 斎藤弘明
日本大学理工学部薬学科第 24 期・第 25 期合同同期会一同
広告企業：株式会社マツモトキヨシホールディングス

合計 509,498 円

会費納入のお願い

校友会活動は会費により運営しています。会費納入にご協力をよろしく願います。

宛名に会費納入状況が印刷されています。（会員番号に☆印のある方は未納です。）

未納の方は同封振込用紙で会費納入をお願いいたします。会費は年額 2,000 円です。事務簡素化のため 5 年分 10,000 円または 10 年分 20,000 円を一括納入していただければ幸いです。

いちばん以上って、ないから。

株式会社 **マツモトキヨシ** ホールディングス
グループ経営理念

あなたにとっての、いちばんへ。

1st for You.

私たちは、すべてのお客様のために
まごころをつくします。

私たちは、すべてのお客様の美と健康のために
奉仕して参ります。

私たちは、すべてのお客様にとって、
いちばん親切なお店を目指します。



Matsumoto Kiyoshi
Holdings

● マツモトキヨシホールディングスのシンボルマークは…
動的な“飛躍する成鳥”へ進化した
3つのせいちょう(成鳥)を意味しています。

● 3つのせいちょう(成鳥)とは
1. 誠聴: 誠実にお客様の声を聴きます。*独自に意味づけられた言葉となります。
2. 整調: 美と健康の分野において、お客様の調子を整えます。
3. 成長: 上記2つをもって、マツモトキヨシホールディングスグループは成長します。

この経営理念に基づき、お客様とその大切な人の健康を守る
「かかりつけ薬局」として、
地域医療に貢献するために、服薬指導・服薬支援の
質の向上に努めております。

平成 29 年度 通常総会・懇親会のお知らせ

日本大学薬学部校友会（通称 日本大学桜薬会）会則第 11 条に従い平成 29 年度通常総会・懇親会を下記要領により開催いたします。

この総会は日本大学校友会の一翼を担う学部校友会として重要な行事です。ご多用中とは存じますが、万障御繰り合わせのうえ、ご出席下さるようお願いいたします。

総会後の懇親会の席上、定年退職されました白神 誠先生、伴野 和夫先生、今 ユリ様、西澤 幸子様にご記念品を贈呈し、長年のご指導に対し、感謝の気持ちを表したいと考えております。

記

総 会

日 時 平成 29 年 6 月 24 日（土）午後 1 時 30 分
場 所 日本大学薬学部 512 教室
東葉高速線 船橋日大前駅下車 徒歩 7 分
議 題 第 1 号議案 平成 28 年度庶務報告・事業報告
決算報告及び監査報告
第 2 号議案 平成 29 年度事業計画・予算案
第 3 号議案 役員承認

懇親会 午後 3 時～ 5 時
場 所 日本大学薬学部食堂（2 号館 2 階）
会 費 ￥3,000（当日会場で申し受けます）

準備の都合がありますので**6月10日**までに同封ハガキでご返信ください。

| | | | |
|-----|------------------|-----|-----------------------------------|
| 発行日 | 平成 29 年 4 月 15 日 | 発行所 | 千葉県船橋市習志野台 7- 7- 1 |
| 編集人 | 日本大学薬学部校友会事業委員会 | | 日本大学薬学部内（〒 274-8555） |
| 発行人 | 日本大学薬学部校友会 内倉和雄 | | TEL / FAX 047-465-1478（直通） |
| 印刷所 | 協友印刷株式会社 | | E-mail : pha.alumni@nihon-u.ac.jp |
| | TEL 03-3267-8056 | | 振替口座番号 00140-0-53798 |
| | | | 振替口座名 日本大学薬学部校友会 |